

一関工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	法学
科目基礎情報						
科目番号	0067			科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	未来創造工学科（一般科目）			対象学年	5	
開設期	通年			週時間数	2	
教科書/教材	教科書は使用しない。（参考書）伊藤正己、加藤一郎編「現代法学入門」有斐閣双書、井上秀典著「持続可能な社会を考える法律学入門」八千代出版、稲正樹等著「法学入門」北樹出版。					
担当教員	阿部 憲記					
到達目標						
法学は、社会科学の一分野である。工学を専攻するうえで、法学を学ぶことに疑問を覚える学生もいるかもしれない。しかし、工学とは、数学と自然科学を基礎とし、ときには人文科学・社会科学の知見を用いて、公共の安全、健康、福祉のために有用な事物や快適な環境を構築することを目的とする学問である。したがって、法学を学ぶことは、社会科学の知見を広げることの意味し、工学の修得を助けることにつながる。よって、本講義の到達目標は、工学を専攻する学生に必要な十分な程度の法学の習得となる。						
【教育目標】 B						
【学習・教育到達目標】 B－１・B－２						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	法学を学び社会科学の知見を十分に広げることができる		法学を学び社会科学の知見を一定程度広げることができる		法学を学び社会科学の知見を広げることができない	
学科の到達目標項目との関係						
教育目標 B						
教育方法等						
概要	法学は、社会科学の一分野である。工学を専攻するうえで、法学を学ぶことに疑問を覚える学生もいるかもしれない。しかし、工学とは、数学と自然科学を基礎とし、ときには人文科学・社会科学の知見を用いて、公共の安全、健康、福祉のために有用な事物や快適な環境を構築することを目的とする学問である。したがって、法学を学ぶことは、社会科学の知見を広げることの意味し、工学の修得を助けることにつながる。					
授業の進め方・方法	教科書を使用しての授業は行わないが、参考書としてあげた基本書などを通読することによって、授業内容の予習することを推奨する。また、配布するレジュメ（プリント）に基づいて復習することが望ましい。					
注意点	本講義は、授業で学生に意見を求める場合があるため、その際は積極的な参加を求める。 【事前学習】事前に該当箇所を参考書などで通読することがのぞましい。 【評価方法・評価基準】期末試験（60％）、課題（40％）で評価する。総合成績60点以上を単位修得とする。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
選択必修						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	法学とはなにか（導入）		法学とはどのような学問なのか、概要を学ぶ	
		2週	法の効力・法の適用		法の効力、適用範囲、解釈等について学ぶ	
		3週	憲法①		法律の基礎となる憲法を学ぶ	
		4週	憲法②		人権について学ぶ	
		5週	憲法③		人権・統治について学ぶ	
		6週	憲法④		統治について学ぶ	
		7週	裁判制度		裁判の意義、裁判所の構成、裁判員制度などについて学ぶ	
		8週	刑法①		公法の中で多く知られている刑法を学ぶ	
	2ndQ	9週	刑法②		刑法（各論）	
		10週	刑法③		刑法（各論）	
		11週	民法①		私法の中で多く知られている民法を学ぶ	
		12週	民法②		民法（各論）	
		13週	民法③		民法（各論）	
		14週	民法④		民法（各論）	
		15週	期末試験			
		16週	試験の解説、（授業内容）			
後期	3rdQ	1週	知的財産①		「特許権」や「意匠権」などについて学ぶ	
		2週	知的財産②		「特許権」や「意匠権」などについて学ぶ	
		3週	知的財産③		「著作権」や「商標権」などについて学ぶ	
		4週	知的財産④		「著作権」や「商標権」などについて学ぶ	
		5週	現代社会と法①		AIと法をめぐる動きについて学ぶ	
		6週	現代社会と法②		情報と法について学ぶ	
		7週	現代社会と法③		ネットワークの媒介者の責任について学ぶ	
		8週	現代社会と法④		情報の取扱いと法的責任について学ぶ	
	4thQ	9週	国際社会と法①		国際法とは何かについて学ぶ	
		10週	国際社会と法②		平和のための国際法について学ぶ	
		11週	国際社会と法③		人権のための国際法について学ぶ	
		12週	国際社会と法④		紛争解決に関する国際法について学ぶ	
		13週	宇宙と法①		宇宙に関する法について学ぶ	

		14週	宇宙と法②	宇宙に関する法について学ぶ	
		15週	期末試験		
		16週	試験の解説、（授業内容）		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル 授業週
評価割合					
	試験	課題	合計		
総合評価割合	60	40	100		
総合評価	60	40	100		